

5 特記事項

(1) 電源引込

- ア 既存12m電柱から高压分岐を行うこと。
- イ 分岐容量が追加負荷（200kVA）に耐えうることを事前に確認すること。
- ウ 配線に際し仮設用電柱を新設し、架空高压ケーブルを敷設すること。
- エ 高压ケーブル（CVT）の電柱引込部には、腕金を新設し、碍子による支持を行うこと。
- オ 架線金物、腕金、碍子、支持材等はJIS規格のものを使用すること。

(2) 仮設キュービクル設置

- ア キュービクルは、変圧器200kVA/高压6.6kV受電に対応したものを設置すること。
また、外形はW＝2100、D2000、H2600を基準とする。
- イ キュービクルには以下の設備を備え、納入前に製作図を官側へ提出し承認を得ること。
 - ・高压遮断器（VCB）、変圧器3相 200kVA、断路器
 - ・過電流継電器及び高压電圧計・高压電流計
 - ・低压盤、電流計、電圧計
 - ・MCCB 3P250AF・250A×2
- ウ 設置期間は6月末から、9月末の3カ月を基準とし、期間終了後請負側にて新設品及びリース品を撤去すること。
- エ 本設備の接地は、A種、B種、D種の3系統の接地を設けるものとする。

(3) 安全対策

- ア 高所作業・電気設備作業は必要資格を有したものが行うこと。
- イ 受電開始前に保護継電器試験・耐圧試験を現地でを行い、諸官庁への届出も請負側で行うこと。また、試験実施の際は、官側の電気主任技術者の監督を受けること。
- ウ 停電を伴う作業については、極力最短の方法を選択すること。また、停電時期については6月6日（土）、20日（土）を基準とするが、細部は監督官と調整すること。

(4) 配線作業

- ア 高压ケーブルは6kV CVT相当品とし、断面積は負荷容量及び引き込み距離を踏まえて選定すること。
- イ 二次側ケーブルは既存FEPケーブルルートを利用すること。
- ウ 転がし配線とする区間は、保護材（FEP管）を設置し通行による損傷を防ぐこと。

(5) 試験・検査

- ア 高压・低压絶縁抵抗試験
- イ キュービクル（変圧器）耐圧ならびに保護継電器試験
- ウ 電圧・電流測定
- エ 負荷試運転（冷暖房設備運転による確認）
- オ 絶縁抵抗測定・接地抵抗測定
- カ 上記の結果を「試運転結果報告書」として提出すること。

(6) 発生材

発生材は、有価物（鉄くず等の売払い可能なもの）と産業廃棄物とに分けた後に、有価物は運搬・処分できる大きさに切断のうえ、監督官等の指示する場所に整理集積し「発生材調書」を添えて引き渡すものとする。また、産業廃棄物については、関係法令に基づき処分し、産業廃棄物管理票（E票）の写しを官側に提出すること。

(7) その他

- ア 各種法令等に基づく諸官庁への届出及び必要資材の準備は請負者の負担において実施すること。
- イ 仮設キュービクル設置期間中の維持管理については、請負者側で実施すること。

役 務 名 称	107号隊舎仮設キュービクル設置	図面 番号	3／5
図 面 名 称	仕 様 書（2／2）	縮 尺 ――	
陸上自衛隊大和駐屯地業務隊			令和8年4月13日